

日本社会科教育学会
第 66 回全国研究大会（弘前大会）
プログラム

大会主題 日本社会の現実と社会科授業

期 日 2016（平成 28）年 11 月 5 日（土）・6 日（日） *関連行事は 4 日（金）

会 場 弘前大学文京キャンパス（〒036-8560 弘前市文京町 1 番地）

主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門

後 援 青森県教育委員会 弘前市教育委員会 青森市教育委員会 国立大学法人弘前大学

日 程

第 1 日目 11 月 5 日（土）

8:30	9:30	12:00	13:30	16:15	17:15	17:30	19:30
受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム	総会	移動	懇親会 (大学会館)	

第 2 日目 11 月 6 日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表	

関連行事

授業公開 2016（平成 28）年 11 月 4 日（金）

会 場 弘前大学教育学部附属中学校（〒036-8152 弘前市学園町 1 - 1）

内 容 地域課題に向き合う社会科授業

受 付 13:20

授 業 13:50～14:50

研究協議会 15:15～16:20

第1日目 2016(平成28)年11月5日(土)

自由研究発表Ⅰ 9:30 ~ 12:00

自由研究発表Ⅰ－第1分科会 (203講義室)

司会者 東洋大学 栗原 久
宇都宮大学 溜池 善裕

(1) 正統的周辺参加論に依拠した、市民的パフォーマンスを高める評価のあり方に関する研究
－ラーニング・パートナーとの共同的な学びを通して－

佐賀大学附属中学校 野田 英樹

(2) メディア・リテラシーの育成を目指す中学校社会科学習評価に関する研究

新潟大学大学院 茅野 道

(3) 「評価主導の学習指導」を実現する社会科評価実践の開発

宮崎大学 藤本 将人

(4) 社会科における「生き方」の探究
－総合的な学習の時間との連携を中心に－

清和大学 小松 伸之

(5) 二人称アプローチによる社会科学習評価の研究
－「あなた」と「わたし」のカップリング学力への視線－

佐賀大学 佐長 健司

自由研究発表Ⅰ－第2分科会 (205講義室)

司会者 広島大学 木村 博一
常葉大学 鎌田 公寿

(1) 情報リテラシーを育てる社会科授業の構成(1)
－ハイパフォーマーの実践から授業構成の鍵をさぐる－

帝京大学 鎌田 和宏

(2) 情報リテラシーを育てる社会科授業の構成(2)
－取材される側の違和感から社会問題へ－

東京学芸大学附属世田谷小学校 岸野 存宏

(3) 情報リテラシーを育てる社会科授業の構成(3)
－松本サリン事件の新聞報道を教材として－

東京学芸大学附属世田谷小学校 松本 大介

(4) 市町村合併に伴う小学校社会科副読本の変容と課題
－秋田県内の副読本を事例として－

秋田大学大学院 金 拓朗

(5) 社会科における副読本のメディア構成と活用法に関する研究(3)
－副読本の学習問題の分析－

信州大学 松本 康
信州大学 篠崎 正典

自由研究発表Ⅰ－第3分科会 (206 講義室)

司会者 宇都宮大学 熊田 禎介
東洋大学 須賀 忠芳

(1)生徒の代案提示力の育成をめざす授業開発研究

－クリティカルシンキングからクリエイティブシンキングへの発展へ－

兵庫県立尼崎高等学校 品川 勝俊

(2)社会的背景の読み取りを基盤とした文章読解力向上のための教育方法

東北大学大学院 藤崎 さなえ

(3)教師と学習者との協働による社会科授業の拡張的移行

佐賀大学大学院 野口 純一

(4)社会科教育における構想力の系譜に関する一考察

－「公共（仮称）」の創設をひかえて－

香川大学 鈴木 正行

(5)これからの社会科の学習問題づくり

－「東京オリンピック」とアクティブ・ラーニングの学習問題－

北海道教育大学 田山 修三

自由研究発表Ⅰ－第4分科会 (207 講義室)

司会者 東京都立北豊島工業高等学校 佐藤 亨
日本女子大 田部 俊充

(1)ESD の視点を入れ地理的見方・考え方を育成する学習指導の在り方

－中学校社会科地理的分野の諸地域学習において－

練馬区立大泉西中学校 池下 誠

(2)ESD の視点からみたドイツ・ラインラント＝プファルツ州の地理学習

広島大学／日本学術振興会特別研究員 阪上 弘彬

(3)「四日市公害と環境未来館」における公害の表象と学びをめぐる問題

四日市公害と環境未来館 井川 和道

(4)シティズンシップ教育としての ESD(02)

－プロジェクト ESICS のカリキュラム構成－

東北大学 谷口 和也

東北大学 中野 瑛亮子

(5)公民的資質育成を実質化する人生ケースメソッドの実践

－身近な地域の経済活動と環境教育(20)－

名古屋商科大学 竹澤 伸一

自由研究発表 I - 第 5 分科会 (208 講義室)

司会者 東京学芸大学 荒井 正剛
上越教育大学 志村 喬

- (1) 地理的知識を高める新聞活用した授業実践の内容と効果
- 高校地理歴史科教育法の授業を通じて -

北翔大学 菊地 達夫

- (2) 社会科教員に求められる地理的リテラシーについて
- 東京都教員採用試験を参考に -

山村学園高等学校 渡辺 利彦

- (3) 地理学習におけるアクティブラーニングの意義
- 高校地理 A 「深まる世界の相互依存関係」をテーマにした授業実践を事例に -

専修大学松戸高等学校 / 筑波大学大学院 泉 貴久

- (4) 中川浩一「地理教育論」の特徴と生成

群馬大学名誉教授 山口 幸男

- (5) システムアプローチと地理教育

静岡大学 山本 隆太
ERIC 国際理解教育センター 梅村 松秀

自由研究発表 I - 第 6 分科会 (302 講義室)

司会者 埼玉大学 桐谷 正信
東京学芸大学附属国際中等教育 山本 勝治

- (1) 英国式アクティブラーニングを用いた三内丸山遺跡授業の提案
- 資料から推論する力の育成に焦点をあてた小学校パイロットテスト結果報告 -

広島大学大学院 菅尾 英代
英国カンブリア大学名誉教授 Hilary Cooper

- (2) 伝説を教材として利用した高校世界史の授業内容開発
- 「アーサー王伝説」を用いて -

佐賀県立佐賀東高等学校 堤 敏浩

- (3) オーストラリアにおける NSW 歴史カリキュラムの特徴

宮城教育大学 吉田 剛
宮城教育大学学部生 門屋 実咲

- (4) 過去の取り扱い方を比較する学習の可能性
- ドイツの中等歴史教科書を手がかりにして -

山梨大学 服部 一秀

- (5) 世界の中の「象徴天皇」制

愛知県立東海南高等学校 糸井 仁

自由研究発表Ⅰ－第7分科会 (303 講義室)

司会者 元千葉県公立高校 加藤 公明
兵庫教育大学 原田 智仁

- (1)高等学校の学力低位者に対し歴史的思考力を育成する授業法の開発
－思考チャートを用いた足場かけの実践－

愛知教育大学大学院 白河 格

- (2)事象の背景と本質を捉える思考を高める授業の実証的研究
－中学校社会科歴史的分野現代史を題材にして－

東京大学大学院 青柳 尚朗

- (3)多面的・多角的な見方・考え方を育成する中学校社会科歴史授業
－琉球・沖縄の位置づけ・役割を考察する単元開発を通して－

新潟大学大学院 諸橋 祥伸

- (4)高等学校における文化史に焦点をあてた地理歴史科授業開発
－単元「Cool Japan ～Période Edo の浮世絵師に触発されて」を通して－

新潟大学大学院 小池 勇也

- (5)「歴史的思考力」という言説の歴史的研究
－戦後教育史を通して考える－

東京学芸大学連合大学院 齊藤 征俊

自由研究発表Ⅰ－第8分科会 (304 講義室)

司会者 上越教育大学 茨木 智志
山形大学 高 吉嬉

- (1)「優しさ」を重視した平和学習
－平和学習における博学連携の役割－

名古屋市立平針小学校／愛知教育大学大学院 大柿 実

- (2)深い平和観を育む戦争学習の在り方の研究
－太平洋戦争末期における美濃部正少佐の特攻隊拒否の教材化を通して－

所沢市立宮前小学校 木下 智実

- (3)戦争体験「語り」の継承と「次世代の平和教育」
－長崎市『語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言者）』推進事業」と山里小・城山小の実践－

秋田大学 外池 智

- (4)戦後の沖縄を考える社会科授業づくり
－金城哲夫の生き方を手がかりにして－

東大阪市立縄手東小学校 澁谷 友和

- (5)加害からの平和教育
－ナショナリズムを超えて－

東京都立国際高等学校／埼玉学園大学 西尾 理

自由研究発表Ⅰ－第9分科会 (305 講義室)

司会者 静岡大学 磯山 恭子
鳴門教育大学 西村 公孝

- (1)高等学校公民科授業における同世代の若者の教材化
－社会に関わろうとする生徒の育成を目指して－
岐阜県立華陽フロンティア高等学校／筑波大学大学院 江崎 好孝
- (2)「子ども・若者の声 (youth voice)」を生かした公民教育の授業構想
－米国“Action Civics”プログラムの分析を手がかりに－
筑波大学大学院 久保園 梓
- (3)公共領域における市民意識の形成を目指すカリキュラム開発
－総合学習と現地研修を活用した「横浜でグローバル」実践の取り組み－
神奈川学園中学高等学校 小川 輝光
- (4)社会参画を見据えた3つの実践事例検討から見えてきたこと
－「23区の海水浴場」「多摩川水源森林隊」「ゼロ・ウェイスト」の学習－
筑波大学附属小学校 粕谷 昌良
- (5)多様な教育活動を統合したアクティブな社会の学び
－教室・地域・地球を結ぶ高校生の社会参画－
茨城県立取手第一高校 大滝 修

自由研究発表Ⅰ－第10分科会 (309 講義室)

司会者 同志社女子大学 藤原 孝章
桐蔭横浜大学 谷田部 玲生

- (1)公民科の授業において、教師自身の政治的見解はどのように表出しているか？
－授業観察と教師へのインタビューに基づいて－
岡山大学大学院 岩崎 圭祐
- (2)テレビドラマから考える政治教育と18歳選挙権
－テレビドラマ『CHANGE』から政治を考える－
上宮高等学校 田中 智和
- (3)主権者教育の意義と課題
－若者の政治意識の考察を通して－
静岡大学 井柳 美紀
- (4)シティズンシップ教育における主体化の構想
－神奈川県立湘南台高校の政治参加教育の考察を通して－
昭和村立昭和中学校／上越教育大学大学院 室井 章太
- (5)高等学校における政治教育と大学時の投票意欲との関係について
青山学院大学 町支 大祐

自由研究発表Ⅰ－第11分科会 (310 講義室)

司会者 早稲田大学 池 俊介
福島大学 初澤 敏生

(1) 原発問題とメディア報道

－ゲーミング・シミュレーション「美味しんぼ問題」の開発と実践－

北海道教育大学 井門 正美

(2) 過疎地域における地域創生と復興教育の課題

－福島県只見町を事例として－

福島県立只見高等学校 小田 賢二

(3) 地方議会における「争点」をふまえた防災教育

－東海豪雨と東日本大震災を事例として－

名古屋学院大学 國原 幸一郎

(4) 学校・家庭・地域間を行き来する interactive な防災教育の在り方について

－防災に対する意識の地域間格差を補完仕合う試み－

京都大学大学院 高田 満彦

(5) 社会科副読本における津波防災記述の比較・分析

－岩手県・宮城県沿岸部地域を中心に－

北海道教育大学 前田 賢次

自由研究発表Ⅰ－第12分科会 (318 講義室)

司会者 鳴門教育大学 井上 奈穂
お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

(1) 「社会的な見方や考え方」を育成する社会科授業の構成に関する研究

静岡市立横内小学校 金澤 翔平

(2) スピーチ活動を土台にした授業づくりに関する一試論

－表現方法の活用と学習問題づくりの実践を通して－

みよし市立北部小学校 松永 康史

(3) 出前授業による近代土木遺産の教材開発

－北海道稚内・北防波堤ドームの学び－

玉川大学 寺本 潔
北海道教育大学 田山 修三

(4) 思考力・理解力を評価し、指導に生きる効果的な評価方法の開発

－児童の記述を的確に評価する2軸マップ評価法－

練馬区立仲町小学校 嵐 元秀

(5) ロールプレイを用いた論争問題学習の可能性

－授業実践「首都直下地震からの被害を減らすためにはどうすればよいか」(小4)からの考察－

お茶の水女子大学附属小学校 岩坂 尚史

司会者 東京学芸大学 大澤 克美
東京学芸大学附属世田谷小学校 宮田 浩行

- (1) ロール・プレイングを用いて社会的な見方を育む小学校社会科授業の開発
- 第 4 学年単元「ふせごう，交通事故や事件」 -

弘前大学附属小学校 對馬 秀孔

- (2) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
- 日本一をめざす鉛筆塗装 -

荒川区立第二峡田小学校 菅原 周一郎
荒川区立第二峡田小学校 小林 渉
板橋区立板橋第十小学校 飛驒野 安位
板橋区立板橋第十小学校 吉田 隆志
板橋区立板橋第十小学校 諸橋 正多
板橋区立板橋第十小学校 橋之口 清美
板橋区立板橋第十小学校 柏木 一哉
板橋区立板橋第十小学校 富田 麻由
板橋区立板橋第八小学校 成田 香穂里
立正大学 石橋 昌雄

- (3) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
- 手作りの良さを生かした帽子生産 -

立正大学 石橋 昌雄
板橋区立板橋第十小学校 丸野 陽子
板橋区立板橋第十小学校 山野 紅葉
板橋区立板橋第十小学校 豊田 花梨
板橋区立上板橋第二小学校 川久保 好子
板橋区立板橋第八小学校 野原 香織

- (4) 価値判断力・意思決定力を育成する社会科の授業
- これからの漁業を考える 5 年生社会科「天然のぶりか養殖のぶりか」の実践を通して -

筑波大学附属小学校 梅澤 真一

- (5) 問題解決の主体者となり，社会の一員としての自覚を高める授業の在り方
- 主体的に学ぶ姿を求めて -

宮城教育大学附属小学校 佐藤 拓郎
宮城教育大学附属小学校 三浦 秋司
宮城教育大学附属小学校 前田 かおり

自由研究発表Ⅰ－第14分科会 (404 講義室)

司会者 伊勢原市立成瀬小学校 井山 貴代
 国土館大学 北 俊夫

- (1)社会科につなげる生活科の実践的研究
－空間・愛着・自己実現を手がかりに－

愛知教育大学 加納 誠司

- (2)生活科と接続し、アクティヴ・ラーニングを生かした社会科の単元構想の工夫

高岡市立牧野小学校 筏井 弘毅

- (3)「のこしたいもの、つたえたいもの」を公共交通で学ぶ
－市電は地域の宝物－

札幌市立幌西小学校 伊藤 健太郎

- (4)地域の環境を生かした農家の仕事
－第3学年「農家の仕事」2つの事例から－

宇多津町立宇多津小学校 河野 富男

- (5)小学校社会科における実感的な学び(その6)
－中学年での「伝統・文化」の学びを元に－

東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹

自由研究発表Ⅰ－第15分科会 (405 講義室)

司会者 国立教育政策研究所 大杉 昭英
 三重大学 山根 栄次

- (1)模擬体験で学ぶシリア紛争と難民受け入れ問題
－「当事者」として考える国際政治－

東京大学 華井 和代

- (2)単元終末における生徒の「活用」の学びとワークショップ型授業
－「世界の諸地域 ～北アメリカ～」の単元(中学1年)の実践から－

宮城教育大学附属中学校 守 康幸

- (3)社会科における議論コンピテンシーの育成
－ワークショップ型授業「江戸日本橋空き店舗出店計画」の開発から－

山形大学 江間 史明

- (4)社会系教科におけるシリアスゲームの活用

秋田大学大学院 嶽石 涼

- (5)役割体験学習論に基づく中学校社会科・アクティブラーニングの実践

滝川市立明苑中学校／北海道教育大学大学院 武田 竜太
北海道教育大学 井門 正美

自由研究発表Ⅰ－第16分科会（409講義室）

司会者 鳴門教育大学 梅津 正美
愛知教育大学 中妻 雅彦

(1)小学校教員養成段階における社会科の教材開発力育成に関する研究(2)

帝京平成大学 高橋 武郎

(2)教員養成系大学院における社会科教員としての資質能力育成と地域防災教育の展開に関する研究

－大学院生による地域防災副読本の作成・検証の試みから－

愛知教育大学大学院	中西 悠	愛知教育大学	伊藤 貴啓
愛知教育大学	近藤 裕幸	愛知教育大学	真島 聖子
愛知教育大学大学院	明壁 佳樹	愛知教育大学大学院	夏目 祥平
		愛知教育大学大学院	山下 雅仁

(3)教職課程におけるモビリティ・マネジメント教育を担う社会科教員養成

－モビリティ・マネジメントに対する認識の育成を通して－

常磐大学 大高 皇

(4)大学生の教材開発力・授業実践力向上に関する実践的研究(1)

－北教大旭川校の社会科教育ゼミナールの取り組み－

北海道教育大学 金 玗辰
北海道教育大学 坂井 誠亮

(5)大学生の教材開発力・授業実践力向上に関する実践的研究(2)

－旭川の地域教材開発と小中大連携の授業研究会－

北海道教育大学 坂井 誠亮
北海道教育大学 金 玗辰

昼食 12:00～13:30

評議員会 12:00～13:30 (306 講義室)

「地域再生」に向き合う社会科授業 ―東北の現実から考える―

[趣旨]

青森県では、折からの人口減少・少子高齢化を背景としながら、地域経済の衰退や自治体財政の悪化、それに伴う地域コミュニティの弱体化などが課題となっています。その一方では、都市部の豊かな生活や日本国民の平和な暮らしを支えるために原子力関連施設や米軍基地との「共存」を余儀なくされ、住民たちは経済成長や安全保障といった政策の負担を背負わされてきたとも言えます。なぜ、本州最北端の地にこのような矛盾が生まれてきたのでしょうか。また、「地域が再生する」とはどのような状態を指し、その実現をいかに進めていけばよいのでしょうか。そして、「平和で民主的な社会の形成者」の育成を担う社会科は、こうした「地方」が直面する諸課題とどのように対峙し、地域再生を担う人材の育成にどのように関わることができるのでしょうか。

本シンポジウムでは、東北（北東北）という日本社会におけるいわば「周縁」と位置づけられてきた地域の現実に焦点をあて、その問題の構造や歴史的な成り立ちを読み解きながら、「地域再生」と向き合う社会科授業のあり方を探ってみたいと思います。

コーディネーター 広島大学 棚橋 健治
弘前大学 篠塚 明彦

報告者

(1)地方創生言説の中の地域学

首都大学東京 山下 祐介

(2)東北は「周縁」か

広島大学 河西 英通

(3)社会科は「地域再生」を担う人材をいかに育てるか

―地域に生きる主体形成をめざした社会科授業づくりの視点―

千葉大学 竹内 裕一

(4)地域教材は地域再生の基礎となりうるか

―教育現場での試案・実践を通して―

外ヶ浜町立三厩中学校 三浦 博英

第2日目 2016(平成28)年11月6日(日)

自由研究発表Ⅱ 9:00~12:00

自由研究発表Ⅱ—第1分科会 (205講義室)

司会者 筑波大学 伊藤 純郎
岩手大学 土屋 直人

- (1)「世界史」大学入試問題の成立と展開に関する考察
—1950年前後の文部省による施策と授業への影響に焦点を当てて—
上越教育大学 茨木 智志
- (2)初期社会科「ごっこ遊び」のオリジナリティ
流通経済大学 市川 新
- (3)1930年代の日本における地理と公民科の関係
—「政治」をめぐる内容の位置づけと取扱いを通して—
新潟大学 釜本 健司
- (4)社会科における新聞教育の役割
—昭和20年代の新聞教育に着目して—
愛知教育大学大学院 澁谷 晃平
- (5)昭和戦前期における<歴史教育>言説の生成と「学知」の構築過程
—師範大学講座『歴史教育』の言説分析をもとにして—
愛媛大学 福田 喜彦

自由研究発表Ⅱ—第2分科会 (206講義室)

司会者 国立教育政策研究所 二井 正浩
宮崎大学 藤本 将人

- (1)「21世紀型スキル」を育成する小学校社会科の授業構想
—ICTを利活用した先行実践例を手掛かりとして—
西九州大学大学院 大坪 康真
- (2)小学生の地図活用に関する資質・能力の育成をめざして
—小学校3年生からの地図帳活用や6年歴史単元における地図帳活用を中心に—
越谷市立宮本小学校 中山 正則
- (3)身に付けた見方や考え方を生かして、社会的事象の意味を考える子の育成
東京学芸大学附属小金井小学校/東京学芸大学大学院 小倉 勝登
- (4)「資質の構造化」にむけての予察的考察
—小学校教科書への批判とともに—
関西福祉科学大学 小西 正雄

- (5)社会科教育における「思考力」の捉え方を考える
 -国立教育政策研究所研究報告書「21世紀型能力」を緒に-

上越教育大学 志村 喬
 上越教育大学 茨木 智志
 上越教育大学 中平 一義

自由研究発表Ⅱ－第3分科会 (207講義室)

司会者 帝京大学 中山 京子
 宮城教育大学 吉田 剛

- (1)社会認識を踏まえ異文化を尊重する態度の育成を図る世界地誌的学習の在り方
 -小学校第6学年「ブラジル」の実践を通して-
 上越市立春日小学校/上越教育大学大学院 栗田 明典
- (2)小学校における多文化的歴史カリキュラムの開発
 神戸大学附属小学校 太田 満
- (3)JSL 児童生徒を対象とした社会科教材開発の研究
 -『Teaching Social Studies to English Language Learners 2nd Edition』を手掛かりにして-
 秋田大学大学院 小野木 淳
- (4)多文化共生社会を生き抜く力を養う社会科授業2
 -地域から考えるイスラムへの理解-
 南魚沼市城内中学校 仙田 健一
- (5)グローバル化に対応した資質・能力育成のための社会科カリキュラム・デザイン
 -IBの単元設計が示唆するもの-
 中央大学大学院 津山 直樹

自由研究発表Ⅱ－第4分科会 (208講義室)

司会者 山梨大学 服部 一秀
 皇學館大学 深草 正博

- (1)歴史学の成果を生かす歴史教育の在り方について
 -相馬御厨をめぐる紛争の紙上討論を事例に-
 千葉県立市川東高等学校 四十栄 貞憲
- (2)戦間期国際関係の教材化と授業実践
 -歴史内容解釈の観点から-
 早稲田大学 遠藤 紳一郎
- (3)ポストコロニアルな状況から考える高等学校世界史授業の開発
 -フランス-アルジェリアの関係を事例に-
 筑波大学大学院 滝沢 康紀
- (4)高校世界史における探究課題の設定による歴史的思考力の育成
 -国際バカロレアのDP Historyの実践を通して-
 東京学芸大学附属国際中等教育学校 山本 勝治
- (5)高校新学習指導要領下の地理歴史科における地歴連携のゆくえ
 筑波大学附属坂戸高等学校 今野 良祐

自由研究発表Ⅱ－第5分科会 (302 講義室)

司会者 桜美林大学 田中 暁龍
秋田大学 外池 智

(1)社会的課題に関する日韓共通教材の開発研究

－社会的課題に関する日韓のアンケート調査の分析を中心に－

愛知教育大学 真島 聖子

(2)戦後 70 年をこえて

－「歴史から学ぶこと」の意味を問う授業－

奈良女子大学附属中等教育学校 北尾 悟

(3)歴史教育の存立基盤としての歴史事実の探究と「ケア（配慮）」の相克をめぐって

東洋大学 須賀 忠芳

(4)戦後、加藤章の「社会科歴史教育論」と「日韓共同の歴史教育運動」

－国をまたがる開かれた社会科歴史教育のための試み－

東京大学大学院／日本学術振興会特別研究員 柳 準相

(5)第2次東学農民戦争を授業する

－日清戦争は日本 vs 清国の戦争だったのか

日本大学習志野高等学校 渡辺 哲郎

自由研究発表Ⅱ－第6分科会 (303 講義室)

司会者 愛知教育大学 土屋 武志
帝京大学 野口 剛

(1)主権者教育としての中等歴史教材の開発

－寛保期の大沼田新田（現東京都小平市）における名主選出を事例として－

東京都立農業高等学校 大木 匡尚

(2)高校生の歴史（日本史）観とこれからの授業

元千葉県公立高校 加藤 公明

(3)あなたは会津に行くか越後に残るか？

－上杉氏の会津転封を中学生が考える－

新潟市立石山中学校 小林 朗

(4)社会を読み解くことにおける'Doing Historiography'の意義

－イングランドにおける「歴史の諸解釈」(interpretations)教授の事例研究－

広島大学大学院 菅尾 英代

(5)子どものもつ「歴史的意義（Historical Significance）」の判断基準に関する実証的研究

－ランキング・タスクを用いた調査に基づいて－

岡山大学大学院 鉦 悠介

自由研究発表Ⅱ－第7分科会 (304 講義室)

司会者 明治学院大学 佐藤 公
北海道教育大学 鈴木 哲雄

- (1)歴史を解釈する視座の獲得についての一考察
－「様々な角度から見る米騒動」の実践から－

筑波大学附属高等学校 大庭 大輝

- (2)北海道から見る<日本>の歴史
－アイヌ史的古代の授業化－

札幌市立小野幌小学校 大谷 伸治

- (3)テスト問題から見るマレーシアの歴史教育の現状

愛知県立常滑高等学校／愛知教育大学大学院 内藤 裕子

- (4)高校世界史教育におけるモノづくりを用いた教材開発
－古代の技術を通して歴史的思考力を育成する試み－

東京大学附属中等教育学校 南澤 武蔵

- (5)東部ユーラシアの視野からみる日本古代の交流
－入唐僧道昭に着目して－

筑波大学大学院 岩井 香奈

自由研究発表Ⅱ－第8分科会 (305 講義室)

司会者 清和大学 小松 伸之
宮城教育大学 松岡 尚敏

- (1)社会参画の意欲を高める中学校社会科の学習のあり方
－18歳選挙を通して－

名取市立増田中学校 宮本 静子

- (2)社会的危機・地域再生に向き合う力とは
－小学校中学年に見る主権者意識－

東京学芸大学附属世田谷小学校 宮田 浩行

- (3)高校生企業『おだづもっこ』の軌跡 2015
－「つながり」に支えられたアクティブラーニング－

東京学芸大学附属国際中等教育学校 古家 正暢

- (4)アクティブ・ラーニングからみた高校社会科教育実践
－マニフェスト・リクエストから始まるラーニング・フォー・アクション－

神奈川県立新羽高校／聖心女子大学 風巻 浩

- (5)振り返りシートを活用した主体的な学びを促す社会科歴史授業の開発・実践

住田町立世田米中学校 細川 遼太

自由研究発表Ⅱ－第9分科会 (309 講義室)

司会者 北海道教育大学 井門 正美
北海道教育大学 坂井 誠亮

(1)社会系教科目における価値学習の実態と課題(2)

－授業内容と中・高校生へのヒアリング調査の分析を踏まえて－

国立教育政策研究所 大杉 昭英
福井大学 橋本 康弘
岐阜大学 田中 伸
岐阜大学 須本 良夫
川崎医療短期大学 中原 朋生

(2)中等教育における「対立と合意」・「効率と公正」と「幸福・正義・公正」接続の試み

－「生」の諸課題に関わる単元の開発を通して－

東海学園大学 原 宏史

(3)小学校社会科における「子どもの貧困」問題の教材化

－先行実践の検討を手がかりとして－

西九州大学 松井 克行

(4)社会福祉の視点から見た社会科教育

－障害者福祉に関する教科書分析を通して－

立正大学 石橋 昌雄

(5)『社会科教育実践の歴史(中学・高校編)』を希望学の視点から読み解く

－教師の志向と生徒の形成する願いに着目して－

筑波大学 村井 大介

自由研究発表Ⅱ－第10分科会 (310 講義室)

司会者 東北学院大学 坪田 益美
京都教育大学 水山 光春

(1)主権者教育実施による高校生の投票行動

－参院選後のアンケート結果より－

明治大学 藤井 剛

(2)18歳選挙権時代における主権者教育の課題

鳴門教育大学 西村 公孝

(3)主権者教育は学校や生徒のどのようなニーズに応え得るか

－高等学校における継続的な実践をふまえて－

岡山大学 桑原 敏典

(4)「政治的リテラシー」の評価研究

－パフォーマンス評価と鑑識眼的評価から考える－

お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

(5)主権者教育における対話的技法の必要性

筑波大学附属駒場中・高等学校 山本 智也

自由研究発表Ⅱ－第11分科会 (318 講義室)

司会者 帝京大学 加納 隆徳
大阪体育大学 工藤 文三

(1)倫理「日本の思想」へのアプローチ(7)

－主権者教育の課題と公の意識のあり方について－

岐阜県立加納高等学校 大橋 弘志

(2)高等学校公民科現代社会において出生前診断を取り上げる意義と課題

愛知教育大学大学院 明壁 佳樹

(3)国法に服従するソクラテスを教材とした高等学校「倫理」の授業開発

－『クリトン』(50c5-54e2)を用いて－

北海道岩見沢東高等学校／北海道「倫理」「現代社会」研究会 佐藤 克宣

(4)学校教育における哲学対話の理論と方法

筑波大学大学院 得居 千照

自由研究発表Ⅱ－第12分科会 (319 講義室)

司会者 東京学芸大学 川崎 誠司
湘南白百合学園中学・高等学校 熊本 秀子

(1)いじめ問題を題材とした社会科における人権教育へのアプローチ

練馬区立練馬中学校 石本 貞衡
東京家政大学 二川 正浩

(2)法律相談者と法専門家の関係性の再構築をはかる法教育

－「相談のちから」の開発－

大分工業高等専門学校 久保山 力也
東京司法書士会 森 香苗
神奈川司法書士会 所 博之
東京司法書士会 下入佐 真由美
埼玉司法書士会 仲田 かほる
千葉司法書士会 稲元 真一

(3)子どもの思考を深める法教育研究

－主権者としての多様な見方を培う－

上越教育大学 中平 一義

(4)多数決の原理とその運用の在り方に関する指導Ⅱ

江東区立東陽中学校 仲村 秀樹

(5)センター試験はそんなにダメか？

－公民科と高大連携に関する端緒的検討－

鹿児島大学 渡邊 弘

自由研究発表Ⅱ－第13分科会 (404 講義室)

司会者 高千穂大学 鈴木 隆弘
東京都立国際高等学校 西尾 理

- (1)中等教育における金融教育の比較と分析
－英国と米国の事例を手がかりとして－

秋田大学大学院 阿部 修之

- (2)主権者教育に経済教育からの風を
－ユース・デモクラシー確立のための視点と授業－

上智大学 新井 明
神奈川県立平塚農業高等学校初声分校 金子 幹夫
千葉県立津田沼高等学校 杉田 孝之

- (3)「反外国バイアス」を克服する経済の授業
－交換の利益への気づきから貿易の意義の理解へ－

東洋大学 栗原 久

- (4)行動経済学の知見を組み入れた金融・消費者教育プログラムの開発と実践
－中学校社会科公民的分野における取り組みを事例として－

信州大学 田村 徳至

- (5)社会科におけるソーシャル・キャピタルの形成に関する研究
－食に関する学習の構想を通じて－

静岡大学大学院 小林 亮太

自由研究発表Ⅱ－第14分科会 (405 講義室)

司会者 筑波大学 井田 仁康
名古屋学院大学 國原 幸一郎

- (1)中学校社会科における未来志向を身につける社会科授業の実践

西尾市立福地中学校／愛知教育大学大学院 伊澤 直人

- (2)中学校社会科における地歴連携を生かした授業実践

扶桑町立扶桑北中学校／愛知教育大学大学院 小澤 裕行

- (3)国際社会に生きる平和な国家・社会の形成を担う生徒の育成Ⅲ

江戸川区立小松川第二中学校 詰田 剛也

- (4)社会科の見方・考え方を育成する授業の提案
－コンピテンシーと内容の融合をめざして－

八戸市立大館中学校 大下 洋一

- (5)中学校教師がとらえる生徒の歴史認識の調査研究
－「歴史意識」研究を現在の視点から読み直す－

東京学芸大学大学院 近藤 友弘
東京学芸大学 坂井 俊樹

自由研究発表Ⅱ－第15分科会 (409 講義室)

司会者 早稲田大学 小林 宏己
玉川大学 寺本 潔

- (1) エネルギー資源の安定確保の工夫を考える小学校社会科歴史学習
－100万都市江戸の暮らしを支える－

三重大学 山根 栄次 三重大学 永田 成文
四日市市立泊山小学校 萩原 浩司 四日市市立泊山小学校 石田 智洋

- (2) 世界の国々との関わりへの関心を高める社会科学習
－第3学年の実践を通して－

江東区立明治小学校 柳沼 麻美 東京都教育委員会 相原 雄三
東京都教育委員会 児玉 大祐 小平市教育委員会 横山 明
八王子市教育委員会 北川 大樹

- (3) 持続可能な社会への関わり方を考える社会科学習
－第4学年「水はどこから そしてどこへ」の実践を通して－

江戸川区立葛西小学校 辻 慎二 板橋区立板橋第八小学校 西谷 秀幸
八王子市立陶鎔小学校 島田 学 大田区教育委員会 矢部 洋一
大田区教育委員会 木下 健太郎 新宿区教育委員会 北中 啓勝

- (4) 世界の国々との関わりから考える歴史学習
－第6学年「元寇」の実践を通して－

新宿区立落合第二小学校 増田 義久 町田市立大蔵小学校 石井 正広
中野区立西中野小学校 杉渕 尚 江東区立東砂小学校 清水 隆志
東京都教育委員会 山崎 禎久 東京都教育委員会 國長 泰彦

- (5) 日本の高い工業技術に学ぶ第5学年社会科授業
－注目されている日本の中小工場を取り上げて－

金沢市立三谷小学校 泊 和寿

自由研究発表Ⅱ－第16分科会 (410 講義室)

司会者 北海道教育大学 金 玟辰
東京学芸大学 渡部 竜也

- (1) 教員養成学生の社会的統合に関わる意識から見る社会科教育的示唆
－国際比較調査における国内三大学の特徴から－

東京学芸大学 南浦 涼介 滋賀大学 川口 広美
奈良教育大学 橋崎 頼子 サウスイースト・ノルウェー大学 北山 夕華

- (2) 地域学習における大学と教育委員会・学校との連携
－横浜市立鶴ヶ峯中学校での事例－

日本女子大学 田部 俊充

- (3) 「社会科は暗記物」という社会科観を変容させるための試み5
－教材ウォッチングと導入3分間模擬授業を通して－

玉川大学 伊東 富士雄

(4)社会科教師の自覚を育てる中学校実習指導方法の開発
－反省的実践家の養成をめざして－

熊本大学 藤瀬 泰司
熊本大学附属中学校 坂田 秀一
熊本大学附属中学校 小田 修平

(5)中学校社会科教師の教科観の特質と形成要因に関する研究
－教員採用以前と採用以後の関連に注目して－

岡山大学大学院 岡島 春恵

昼食 12:00～13:00

I 18歳選挙権と主権者教育 (304 講義室)

[趣旨]

選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを受けて、高等学校を中心に選挙や政治参加を意識した学習活動が広がっています。しかし、18歳選挙権の問題は、単に高等学校だけの問題ではなく、本来は中学校やさらには小学校からの社会科の学習のなかでもしっかりと意識されるべきものであるはずです。18歳選挙権の問題を中心に据えながら、改めて社会科における主権者教育について議論を深めていきたいと思います。

コーディネーター 静岡大学 磯山 恭子
宮崎大学 吉村 功太郎
指定討論者 鳴門教育大学 西村 公孝

報告者

(1) 小学校段階における主権者教育

－第6学年「わたしたちの願いを実現する政治」の実践をとおして－

宮崎大学附属小学校 永倉 泰治

(2) 中学校社会科における主権者教育の授業づくり

藤枝市立高洲中学校 岩本 知之

(3) 「話し合い」の授業を中核とした主権者教育の考察について

東京都立国際高等学校 宮崎 三喜男

II 子どもを取り巻く現実と社会科授業の成立 (305 講義室)

[趣旨]

格差・貧困の広がりや家族形態の変容、新しいコミュニケーション・ツールの浸透など、子どもたちの生育環境が大きく変化する中で、この現実をどのように捉えるかが社会科の授業づくりにとっても重要になりつつあります。このような子ども世界の変化に焦点をあて、その課題や可能性を探りながら、どのような学習が求められているのかを考えてみたいと思います。

コーディネーター 横浜国立大学 重松 克也
愛知教育大学 真島 聖子

報告者

(1) 戦争という矛盾を巡る対話

－6年単元「歴史の中の戦争、そして、未来」の実践を通して－

岡崎市立六名小学校／愛知教育大学大学院 恒川 徹

(2) 「犠牲」なき社会を構築することは可能か

－「水俣病」を「しかたない」と捉える生徒に向き合って－

東京学芸大学附属国際中等教育学校 古家 正暢

Ⅲ 社会科におけるアクティブ・ラーニングの課題と可能性 (306 講義室)

[趣旨]

アクティブ・ラーニングが次期学習指導要領で柱の一つとされ、その在り方を巡って学校現場では戸惑いと混乱が生じています。そしてその混乱は、学びの形式ばかりに注目がおよび、内容面が等閑視されるという現実をも生み出してはいないでしょうか。社会科本来の目標が達成されるためには、どのようなアクティブ・ラーニングの姿が必要なのでしょうか。社会科の内容論と方法論の結合したアクティブ・ラーニングの在り方について探っていきたいと思います。

コーディネーター 帝京大学 鎌田 和宏
信州大学 松本 康

報告者

(1) アクティブ・ラーニングへの提言

－木下竹次の自律的学習法を抛り所にして考える－

愛知学泉大学／元奈良女子大学附属小学校教諭 小幡 肇

(2) 教科・総合的な学習の時間を通じた「ゆたかな学び」の実現

－信州大学教育学部附属松本中学校でのアクティブ・ラーニングの実践－

立科町立立科小学校 楠 武明

(3) 「契約」を通して法の「公正さ」について考える授業構成

－「政治・経済」における消費者法の実践を通して－

東京都立雪谷高等学校 小貫 篤

Ⅳ 東日本大震災の経験をどのように授業に活かすか (309 講義室)

[趣旨]

東日本大震災から5年が経過した現在、震災の経験や被災地の実態を踏まえた社会科授業のあり方が問われています。当然ながら、被災地の学校と被災地以外の学校とでは、授業で取り上げるべき内容や視点が異なりますし、被災地の中でも被災状況によって内容や視点が異なってきます。この課題研究では、こうした学校が置かれた状況の違いを踏まえて、震災の経験をどのように社会科の授業に活かすべきかについて、議論を深めたいと思います。

コーディネーター 福島大学 初澤 敏生
東京学芸大学 大澤 克美

(1) 福島における果樹農業の現状

大黒屋果樹園 永倉 一大

(2) 震災後の福島県の農業に関する実践報告

－小学校3年生地域教材の実践－

福島大学附属小学校 渡邊 智幸

(3) 震災後の福島県の農業に関する実践報告

－日本地理の実践－

福島大学附属中学校 小松 拓也

[趣旨]

教職大学院が発足してまもなく 10 年が経過します。教育ジェネラリストを育成する教職大学院における社会科教育研究は、どのように行われているのでしょうか。修士課程で行われている社会科教育研究と教職大学院で行われている社会科教育研究には違いがあるのでしょうか。また、今後、教職大学院における教科教育導入、教科教育の教職大学院化が進むことになると、どのような社会科教育研究が可能になるのでしょうか。さらに、どのような社会科教育研究に重点をおく必要性がでてくるのでしょうか。本課題研究では、教職大学院における社会科教育研究の成果を批判的に検討し、その課題を明らかにしつつ、可能性を展望したいと思います。

コーディネーター 東京学芸大学 成田喜一郎
兵庫教育大学 吉水 裕也

報告者

(1) 社会科学習を深める教員を育てる

－愛知教育大学教職大学院の実践から－

愛知教育大学 中妻 雅彦

(2) 現職教員は理論と実践の融合にどう向き合うか

－兵庫教育大学教職大学院における学修を事例に－

兵庫教育大学 山内 敏男

(3) 大学院における社会科教育研究に関する一考察

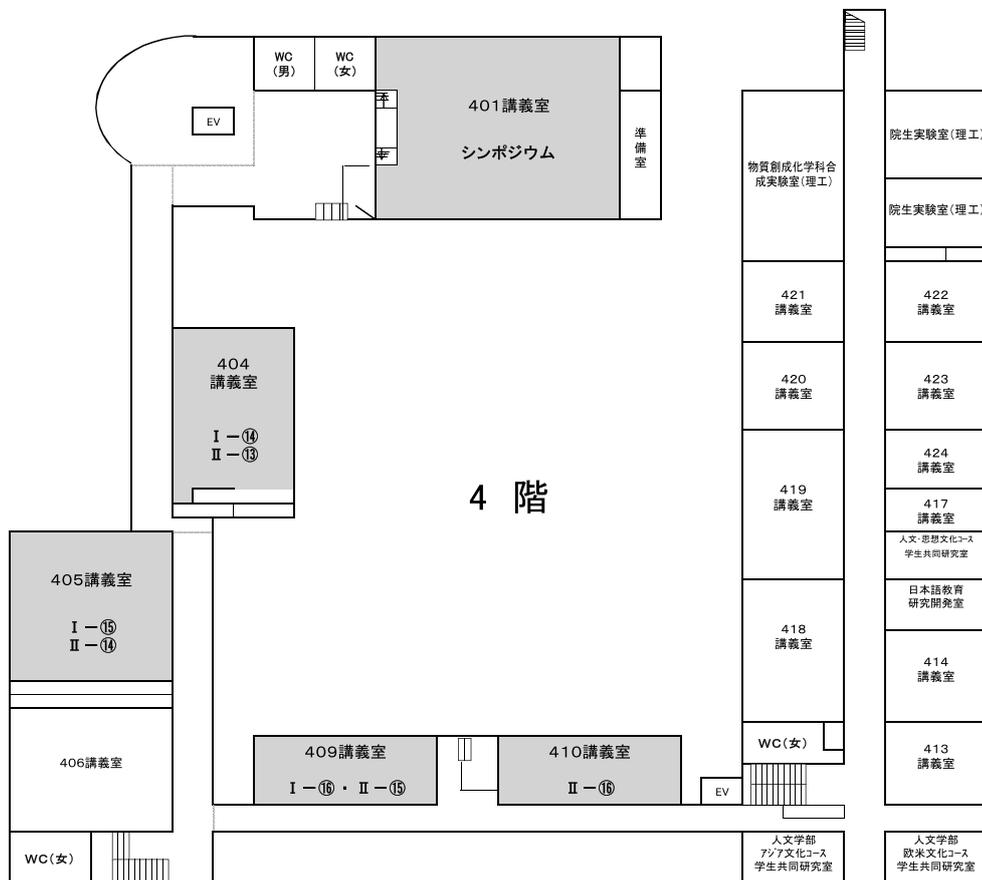
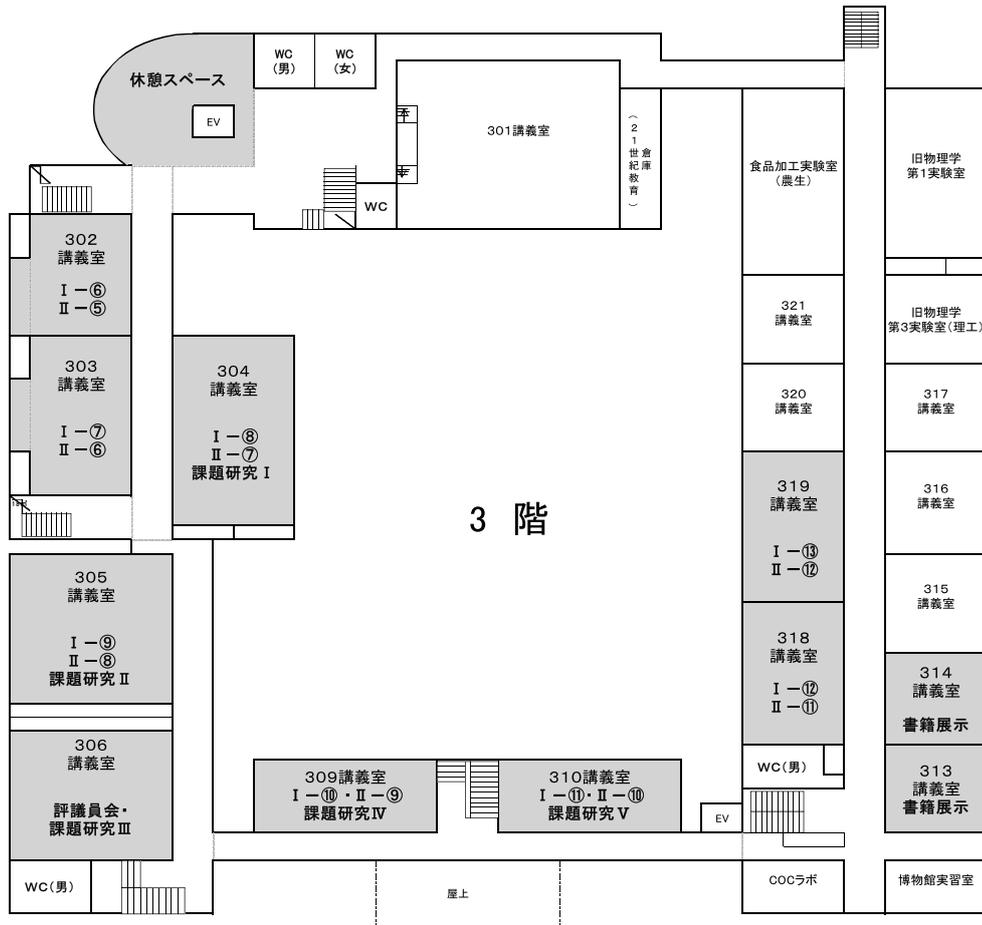
－二つの時計と三つの箱の狭間－

神奈川県立平塚農業高校初声分校 金子 幹夫

* 司会者のお名前は、50 音順に記載しています。

* 大学院重点化による大学院大学の所属につきましては、大学院生との区別をはっきりさせるために、便宜上大学名で記載させて頂きました。

会場案内 総合教育棟教室配置(3階・4階)



大会参加要項

1. 参加費

(1) 大会参加費

- 一般会員 : 3,000 円 (事前登録) 3,500 円 (当日受付)
学生・院生会員 : 2,500 円 (事前登録) 3,000 円 (当日受付)
非会員 : 3,500 円 (事前登録・当日受付)

(2) 懇親会参加費

- 会員・非会員 : 4,000 円 (事前登録) 5,000 円 (当日受付)

(3) 弁当代 (お茶付き)

- 第 1 日目のみまたは第 2 日目のみ : 600 円 両日 : 1,200 円

【振り込み先】 ゆうちょ銀行

口座記号番号 : 02240-9-140191

口座名 : 日社学弘前大会実行委員会 (ニッサガクヒロサキタイカイジッコウイインカイ)

2. 大会参加の登録について 【締め切り延長】2016 (平成 28) 年 10 月 17 日 (月)

◇ 振り込みも忘れずをお願いいたします。大会参加の登録を済ませただけでは事前登録となりませんのでご注意ください。

(1) 大会への参加は、下記の日本社会科教育学会ホームページの第 66 回全国研究大会 (弘前大会) をご確認の上、「大会参加申し込み専用サイト」からお申し込み下さい。申し込み専用サイトをご覧にならない方は、同封の用紙にて同様の内容をメールまたは FAX でお送り頂いても結構です。

日本社会科教育学会 HP : http://socialstudies.jp/ja/research_conference.html

大会参加申し込み専用サイト : <http://jass66th-taikai.com/registration/form1>

※原則として、申し込み専用サイトからのお申し込みをお願いしております。

(2) 大会の受付事務は、弘前大学生協 (担当 : 芹田美穂子) に委託しております。連絡先は、メールアドレス : jass66th-office@hirosaki.u-coop.or.jp, FAX : 0172-36-6965 になります。

(3) 大会参加申込用紙と振込用紙を同封いたします。大会参加の登録、大会参加費・懇親会参加費・弁当代の振り込みは延長し、全て **10 月 17 日 (月)** が締め切りです。

(4) 振り込みが確認できた時点で、大会参加の事前登録の完了とみなします。なお、事前登録された方には、当日配布する『大会発表論文集』を確保します。当日の受付の混雑を緩和するためにも、可能な限り、事前登録をして下さい。

(5) 10 月 28 日 (金) までの事前登録のキャンセルは、振込手数料を除いて返金いたします。弘前大学生協 (担当 : 芹田美穂子) にご連絡下さい。

3. 研究発表の準備について

(1) 自由研究発表の発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分 (計 30 分) です。

(2) 研究発表で資料を配付される場合は、自由研究発表は 70 部以上、課題研究発表は 100 部以上、シンポジウムは 400 部以上をご用意下さい。

(3) 発表の際は、事務局で準備するプロジェクターをご利用いただけます。プロジェクターをご利用の方は、ご自身のパソコンをご持参下さい。

4. 会期中の昼食（弁当）について

弘前大学周辺にはコンビニ・飲食店があまり多くありませんので、弁当の注文をおすすめいたします。弁当は5日（土）・6日（日）ともにお茶付きで600円です。弁当の注文は、大会参加の登録時に、申し込み専用サイトから送信してお申し込み下さい。

※5日（土）は生協食堂をご利用いただくことも可能ですが、規模が大きくないために混雑も予想されます。

5. 会場（文京町地区）へのご案内



〈徒歩〉 JR弘前駅中央口より約20分

〈弘南バス〉 JR弘前駅前（中央口）【3番】乗り場から、「小栗山」・「狼森」、または「学園町」行きに乗車、「弘前大学前」下車（所要時間約15分）

〈タクシー〉 JR弘前駅中央口より約5分

※授業公開（4日）が行われる教育学部附属中学校は、②学園町地区にあります。

学園町地区へはJR弘前駅前からバス（3番乗り場・学園町行き）またはタクシーをご利用下さい。

※大学構内の一般駐車場のご利用は、ご遠慮下さい。

6. お問い合わせ先

- (1) 大会参加の事前登録, 自由研究発表の登録, 大会参加費・懇親会費・弁当代の振り込み, 『大会発表論文集』の原稿提出についてのお問い合わせ

日本社会科教育学会第 66 回全国研究大会 (弘前大会) 実行委員会 受付部
芹田美穂子 (弘前大学生協)

メールアドレス : jass66th-office@hirosaki.u-coop.or.jp

FAX : 0172-36-6965

TEL : 0172-34-4806

- (2) 上記以外の事項

日本社会科教育学会第 66 回全国研究大会 (弘前大会) 実行委員会 事務局長 小瑶史朗
〒036-8560 弘前市文京町 1 番地 弘前大学教育学部

メールアドレス : f-kodama@hirosaki-u.ac.jp

※お問い合わせは, メールでお願いします。

弘前大学文京キャンパス案内図

